

ヤマセミ（カワセミ科） 全長38センチ

神宮寺中川原公園の一角を小さな川が流れています。川幅は2メートルほど、緩やかな流れで深さも数十センチしかありません。この川に、毎年冬になるとヤマセミがやってきます。雪が降ると公園の人影も疎らとなり、車の往来も殆ど無くなります。

しかし、静かになっただけではヤマセミは現れません。公園内を流れる小川はたくさんの小魚などが群れ、元々カワセミが餌場とする場所でした。ダイサギやアオサギ、カワウも魚を狙って集まってきました。警戒心の強いヤマセミも、餌が豊富にある今が都合の良い季節なのです。



奥まった繁みに隠れていることが多い。(オス)

水面の上をキャラ、キャラッと鳴きながら、オスがお気に入りの枝先に留まってくれました。川に突き出した枝から、真下を泳ぐ魚をねらっています。他の鳥に邪魔されたのか、なかなかチャンスがやって来ません。数10分の待ち時間後、一瞬の隙に水中に飛び込んでいった。

魚は捕まえたのか確認できなかったが、下流に向かって飛び去ってしまった。そのあと5分後、今度はメスがやって来ました。つがいと思われます。ヤマセミにとって、この小川はいい狩場となっているようです。こうした光景は、10日間毎日見られました。



川面に突き出した枝先で魚を狙う。(オス)



左右を見ながら魚を狙う。(メス)

山深い溪流に生息するイメージの強いヤマセミが、平野部で観察されることは殆どありませんでした。冬期間は山奥の狩場となる魚も少なくなっているのでしょうか。中川原公園から住宅地まで200メートルしか離れていません。こんなに近い場所で観察できるとは驚きです。こうした自然環境は、いつまでも守り続けていかなければと強く思ったところです。



尾羽をぴっと立て、鳴き声を響かせた。(メス)



魚を狙って水面に飛び込む。(メス)